

第 24 期物理学委員会（第 14 回）議事録

2019 年 4 月 5 日（金曜日）10:00-12:30

日本学術会議 会議室 6-A(1)(2)

出席者： 梶田隆章(委員長)、松尾由賀利(副委員長)、野尻美保子(幹事)、山崎典子(幹事)、浅井祥仁(zoom)、伊藤公孝(zoom)、延與佳子(zoom)、岡眞、川村光、河野公俊(zoom)、駒宮幸男、笹尾真実子(zoom)、須藤靖(zoom)、瀧川仁(zoom)、田島節子、田村裕和、深川美里(zoom)、観山正見、山内正則

欠席者：相原博昭、伊藤公平、川上則雄、五神真、櫻井博儀、林正彦、森初果、村上洋一、山田亨

1. 前回議事録確認（資料 1）

第 10-13 回の議事録を確認した。11 回分について、メール審議日程の誤記があり、訂正する。

2. 第 3 部拡大役員会報告（梶田委員長）：資料 2 に基づき説明があった。70%の出席率と仮定して各委員会について年間で一回分弱の予算である。大学の現状とそのあり方についての三部の議論がまとめられ学術体制分科会に報告された。

[意見]委員手当、会員手当等は相互に融通できないのであるから、予算要求の際旅費を中心に要求すべきではないか。

3. 分科会活動報告

3.1 物性・一般物理分科会（川村委員）：資料 3-1 に基づき説明があった。3/22 マスタープランのシンポジウムは発表 8 件、文科省研究振興局長も招聘。（スライド回覧の依頼が出席者よりあり、後日了承の上回覧された。）提言の発出にむけ、分科会内で WG を設置して、検討を行なっている。CSTI の議論等を踏まえながら、以前の提言をベースに、大学の状況、過度の選択と集中、大学の体力の低下などの問題点を指摘しつつ、スペクトルが産業とシームレスに繋がっていることを生かした提言を目指している。学術体制分科会の議論等全体との歩調も合わせたい。次のステップとしては、物理学委員会、総合工学委員会等とも連携したいと考えている。

3.2 素粒子原子核分科会（田村委員）：資料 3-2 に基づき説明があった。2/19 にマスタープランシンポジウムを行なった。フロンティアの後継計画についての不安感があり、要望書を出すべきかどうか議論された。発表資料は記録とする。また、基礎科学のシンポジウムが盛況だったので、今後も企画として、研究資金、人材育成、国際化等のテーマでシンポジウムを企画したい。

3.3 天文・宇宙物理学分科会（山崎委員）：資料 3-3 に基づき説明があった。キャリアパスについて調査アンケートをやっている。博士課程を途中で中断する人が増えていることなどに注目しており、個人調査も行う予定。マスタープランに関しては LOI を要求する等して 2 ステップで議論を行なった。

キャリアパスアンケートに関連して、意見交換を行った。物理学会でも研究環境についてのアンケート、キャリアパス問題への取り組みが行われていることから、情報共有が必要であること、素核宇宙などでプロジェクトの長期化に伴い大学院学生あるいは任期の間にインパクトのある研究が出しにくい状況、任期付き職に対する社会的信用度が低いという日本特有の問題、教員の定員と大学院の定員の関係から、何らかのキャリア転換が必要であり、その中で博士課程に進むことのメリットを周知する必要があること、学術コミュニティの意識変革の必要性など、幅広い意見がだされた。

3.4 IAU 分科会（山崎委員）：資料 3-3 に基づき説明があった。IAU358 シンポジウム（天文学におけるダイバーシティ）の後援名義使用について、国際委員会に申請することについて報告した。

3.5 物理教育研究分科会（笹尾委員）：資料 3-4 に基づき説明があった。分科会では、物理教育研究の現在の状況について新田先生に講演をいただいた。アメリカでは物理教育の研究（ハーバード、コロラド、コロンビア）と実践が進んでおり、近年高校で物理をとる学生が増えている。一方で、日本では、物理教育研究が系統的に扱われていない。9月にシンポジウムあるいは学術フォーラムを開催予定、また提言の準備を行う。日程は9月なので、急ぎ準備する。

3.6 IUPAP 分科会、国際周期表年推進検討委員会（野尻委員）：それぞれシンポジウムを開催し、盛況であった。2022年のIUPAP 100年とIYBS(International year of basic science for development) についての準備状況の紹介、並びに国内の関連情報の探索状況について報告があった。

4. マスタープランに付いて（山崎委員、松尾委員）：マスタープランの審査の予定について、資料 4 に基づき説明があった。基本はマスタープラン 2017 を踏襲しているが、物理学委員会から 10月に提出した意見書は考慮されていることが説明された。物理学分野の大型研究計画評価小分科会の委員は、物理学委員会からの推薦により決っており、4/16に第1回が予定されている。観山委員より重点大型研究計画ヒアリング課題とロードマップとの関係が説明された。今期におけるフロンティア課題の継続計画等の重要性を鑑み、評価小分科会委員が十分に状況と影響を理解し、本

分野では通常想定されている審議よりも、開催回数を増やすことも考慮して慎重に審議してほしい、などのコメントがあった。

5. 物理学会のインフォーマルミーティングについて（松尾委員）：資料5に基づき説明があった。参加人数は少なかったが有益な意見交換ができた。参加人数を増やすために、物理学会理事会に対して説明に伺うといった可能性についても意見があった。
6. その他： 物理学会から発出する提言を行うことについて、野尻委員から資料6に基づき提案があった。物一の提言との関係、学術体制分科会等の審査状況、物一と素核、天宇とのスコープの違い等について意見交換を行なった。来期のはじめを目指して、まずは、分科会あるいはWGを作り、物一の提言についての情報交換、科学者委員会下の分科会での提言の検討状況、他の課題別委員会との情報交換からスタートし、適宜シンポジウム等を開催しながら、共通理解を形成することとした。WGにするか分科会にするか、また分科会ごとの委員構成については、委員長に一任し、案をだしていただく。

以上